

新加盟楽団紹介

流山シニアアンサンブル

流山市は千葉県北西部の松戸市の北側に位置する人口約20万人のベッドタウンである。最近はつくばエクスプレス“おおたかの森”周辺の開発により都内への通勤客がふえ、全国一の人口に急増都市として名高い。私は10年以上も前からこの市にSEを設立する夢を持っていたが、地元で協力者が見当たらず保留にしていた。ところが昨秋、市原の松永副理事長より、千葉と茂原SEの指揮者の横林歩先生が流山に住んでおられるとの話を伺い、流山から茂原まで単車で往復しておられる話にも感動して、ぜひ横林先生と流山SEを設立したいという私の意向を松永さんより伝えて頂いたところ、OKとのことで、早速面会し、今春、募集して6月よりスタートすることになったものである。



まず、2月に練習会場さがしを始めた、パソコンで6ヶ所の候補会場を、駐車場のキャパや料金、部屋の借用料金etcを中心に取手の宮崎正さんの車で調査して江戸川台の北部公民館に決めた。3月に募集チラシを作成し、横林先生が市内の各公民館に持参された。4.5月で地域のミニコミ紙に募集広告を掲載した。その結果、27名の方に応募して頂いた。男女別では男性16名、女性11名、楽器別ではバイオリン8、マンドリン3、チェロ3、エレキベース1、フルート5、クラリネット、アルトサクソ、ホルン各1、キーボード2、ギター2と非常にバランスがよく特に弦楽器が多いので有難かった。バイオリンの中にはピアノも弾ける方がいた。地域別では流山15、柏4、松戸3、野田2、我孫子2、船橋1である。

去る6月13日は初練習、最初の1時間は設立の経緯の説明、自己紹介の後、1時間の音出し、ウォーミングアップ曲の演奏に始まって“遠くへ行きたい”など3曲を演奏し、皆もようやく楽しそうな表情になり打ちとけてきた。これから隔週日曜日の12時から3時まで練習する予定。コロナ禍の最中で色々不安もあったが、流山の人のためにも団を発足させてよかったと思っている。若冠47歳の横林先生のバイタリティーに驚き、92歳のフルートの団員（男性）の若々しさに驚いている。私も86歳などと大きく言っておれない。この団の設立に協力して下さった全シ連の松永副理事長、宮崎理事に感謝している。（全シ連 岡村）



龍ヶ崎シニアアンサンブル

2021年6月1日、茨城県龍ヶ崎市で「龍ヶ崎シニアアンサンブル」が誕生しましたのでご紹介します。近くでは取手、つくば、牛久で各シニアアンサンブルが活動しておりましたが龍ヶ崎でも是非新楽団を立ち上げたいという岡村さまと宮崎さまの

強いご指導により、茨城県で7番目のシニアアンサンブルが誕生することになりました。知り合いの方からの紹介やチラシ、地域情報誌などを通じて総勢15名の方が会場の龍ヶ崎市市民活動センターに集まってくれました。構成はバイオリン7名、チェロ2名、ギター1名、フルート2名、クラリネット2名、ドラムス1名で、比較的バランスの良い室内楽団の編成と思います。

さて当日は、発起人岡村さまからの挨拶と龍ヶ崎シニアアンサンブルの設立主旨の説明があり、続いて全員で自己紹介、合奏へと進んでいきました。最初皆さんは緊張した面持ちでしたが、音出し練習に続いて「カノン（音階用練習曲）」が始まると皆さんの顔が一変して喜びの顔になりました。これからは新しい仲間と音楽を奏でることができると喜びと希望に満ち満ちた顔でした。この時、「音楽の力は凄い！」と実感しました。



しかし、ここに辿りつくまでにいろいろなことがありました。当初は昨年6月に発足すべく準備を進めておりましたが、ご存じのとおり予期せぬ新型コロナウイルスの大流行が起り、発足日を2回にわたり延期しました。新型コロナという見えない敵も時間が経つに従って少しずつ対策が垣間見ることができるようになり、「適切な場所」でしっかりした「感染対策を徹底」すれば安全に活動を展開できるという思いに至り、今日の発足までこぎ着けました。本日は練習を開始したとたん皆さまが喜びの顔に変わったのを見て、「やって良かった！」と実感しております。これからは当面「三密対策」を徹底しながら、新しい仲間と音楽を楽しむニューライフをエンジョイする生活にしたいと思っております。 代表 谷岡憲隆